

# 十和田市立 新渡戸記念館だより



太素顕彰会会長  
十和田市長 水野好路



十和田市立新渡戸記念館



新渡戸記念館  
館長 新渡戸 明

## 発刊にあたって

新渡戸稲造博士のご厚意により贈られた蔵書をもとに建てられた私設「新渡戸文庫」が設立されてから七十年。本年は、これを継承した市立新渡戸記念館が建設されてから三十年を迎えるという節目の年でもあります。この記念すべき年にあたり、広く市民に太素顕彰会の目的や事業、更に記念館の状況等について一層理解してもらうために「新渡戸記念館だより」を発刊することになりました。

ご承知のとおり当顕彰会は、傳翁等の偉業を讃え永く後世に伝えるとともに、市民あげてその事跡を顕彰し、郷土愛の高揚に努めて参りました。こうして今、開拓の歴史を顧み、先人の不撓不屈の開拓精神を再確認する時、現代に身を置き「今」を顕彰する私たちは、その使命感を一層高め、更に研鑽に努める決意を新たにしております。又、この節目の年にあたり、傳翁、十次郎、七郎と三代に亘る開拓資料の保存整理並びに農業開拓史、土木工学上の導水技術、都市形成の歴史等の研究事業が促進されることを願い職員の体制を整えました。今までの非常勤の館長を常勤とし現当主の新渡戸明氏を専任館長に迎え、更に学芸員の佐々木美恵子さんを配置しました。新しいスタッフに対する皆様のご支援をお願い致しますとともに、より充実した顕彰会の事業と記念館の運営をしたいと考えております。

今回発刊する「新渡戸記念館だより」は初めての企画であり、編集において期待通りに行かぬ点もあると存じますが、ご理解を頂き多くの方々に愛読されることを強く願う次第であります。

最後に今後とも当顕彰会に対する暖かいご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成七年四月一日より、水野十和田市長様並びに十和田市議会の皆様のご理解により、太素顕彰会常任理事・新渡戸記念館館長に就任させていただきました。

大正十四年、新渡戸稲造博士から三本木の文化の向上を目的として蔵書を贈られたのを元に、太田常利大伯父と祖父新渡戸訓の協力により、私設の「新渡戸文庫」が建てられました。その精神は「博覧啓蒙」であり、当新渡戸記念館のバックボーンとして、博士の揮毫による扁額を一階中心に掲げております。

市立新渡戸記念館が開館して今年で三十年、これまでの新渡戸記念館については、亡父新渡戸憲之前々館長のひたむきな努力に負う所が大であり、まさに今日の基礎造りに捧げた一生ともいえるものでした。父没後母稲子館長を経て、初めて専任の館長が常勤するようになり、学芸員が配属されました。

今後は、太素顕彰会会則の「三本木原開拓の祖太素新渡戸傳翁をはじめ、十次郎、七郎三代の事跡を顕彰し、これに盡した多くの人士の功績を讃え、国営事業として継承するにあたり盡された新渡戸稲造並びに諸先達の労に思いを致し、この偉業を永く後世に伝える目的」のために資料原典の保存管理とその展示、研究に努力する所存でありますので、一層のご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

尚、初めての試みとして機関紙「十和田市立新渡戸記念館だより」を年四回発行して、皆様のご理解を頂きたく存じております。どうぞ、ご一読賜りご叱声ご教示頂ければ幸いに存じます。今後共何卒宜しくお願い申し上げます。

# 新渡戸記念館 新体制でスタート

十和田市立新渡戸記念館は、昭和40年の開館以来30年をむかえました。これを機会に十和田市・水野市長の英断と、十和田市議会の皆さんのご理解により、平成7年4月1日から新しい体制でスタートしました。

新渡戸記念館は市立というものの、その運営母体は太素顕彰会になっています。会長は十和田市長であり、副会長は商工会議所会頭がなられています。このたび太素顕彰会に常任理事として新渡戸家の新渡戸明当主が就任し、常任理事が館長を兼務することになりました。これにより設立30年を経て初めて専任の館長が常勤する本来的な記念館としての活動が可能となりました。あわせて本年度から学芸員が配属され事務局の充実とともに、新生十和田市立新渡戸記念館としてのスタートがなされました。市民の皆様に親しまれる記念館を目指して頑張っていきたいと思っております。

市民の方は無料になっておりますので、お気軽においで下さい。



江渡 修一

## ◆新渡戸記念館スタッフ紹介

館長 新渡戸 明  
書記 江渡 修一  
書記(学芸員) 佐々木美恵子



佐々木美恵子

新渡戸記念館  
十和田市

伝統を継ぐ

開拓のぶ資料を展示

博覧啓蒙の精神い・まも

平成7年4月21日 読売新聞より転載  
「150万広場―伝統を継ぐ」より

## ◆太素顕彰会事務局(十和田市商工観光課)

### スタッフ紹介

事務局長(商工観光課長) 安田 喬  
事務局次長(同 課長補佐) 嶋 脇 靖二  
総括主任(同 観光係長) 高田 重利  
主任(同 主査) 工藤 栄子  
主任(同 主査) 工藤 達也

# 太素祭・大盛況におわる

太素祭は稲生川の上水(安政6年5月4日)を記念して、毎年5月3日～5日に太素塚において行われています。今年も盛大に行われました。



賑わう太素祭

## 太素祭期間中の入館者数

	5/3	5/4	5/5	合計
大人	536	644	810	1,990
小人	446	335	649	1,430
合計	982	979	1,459	3,420
昨年	858	1,159	1,384	3,401

## 太素とは？

傳翁は文化4年、15歳の元服の時、号として「太素・たいそ」と名乗ることにしました。「号」を辞典でひくと、「文人・俳人・画家などが本名、字(あざな)の他に用いる雅名」(広辞苑)とあります。傳翁は、正式な文書へ署名するとき以外は、よくこの号を使いました。

5月の新渡戸記念館ニュース

# バンクーバー新渡戸庭園がよみがえるまで

## 新渡戸庭園の歴史

十和田市開拓の祖・新渡戸傳翁の孫にあたる新渡戸稲造は、国際親善につくした偉人であり、五千円札の顔として有名です。彼の功績を讃えてカナダのバンクーバーに日本庭園が造られたのは、1960年のことでした。稲造は国連活動を通じて友人となったマッケンジーが総長をつとめるUBC(ブリティッシュコロンビア大学)で1933年講演を行なっていますが、同年カナダのビクトリアで客死しています。そのことを悼み、1935年に日本の日加協会より記念灯籠がUBCに贈られ、それに伴いキャンパス内に小さな日本庭園が造られました。後にその庭園は大学寮建設のため、こわされる事となります。これを機にマッケンジーは新渡戸稲造を記念する庭園を造ることを思い立ちました。改修工事の設計監理には千葉大学教授・森歙之助が指名され、彼は1959～1960年の1年余りをかけてこの庭園を完成させています。

## '92～'93年の改修工事

UBCキャンパスの北西に位置する新渡戸庭園は8900㎡の規模があり、森歙之助のオリジナルの設計図をみると大きく分けてふたつの部分より構成されていることが分かります。ひとつは滝・流れ・池等による主庭部分、他のひとつは茶室を中心とした茶庭です。主庭部分は、園路に従って進む池泉廻遊式庭園で樹木はサクラ、

モミジ、ツツジ等日本を代表する植物と日本的雰囲気を持つヴァインメイプル、ヘムロック等が多量に植栽されています。閉じられた空間と開放的空間が効果的に構成された森歙之助のオリジナルデザインは、深い日本文化の思想を背景に真に高水準な日本庭園を目指したものでした。しかし、予算的なことや完成当初からの水漏れの補修等によって、森歙之助が意図した事がすべて実現しているとは言いがたく、長い間本格的な改修が待たれていました。



新しく設けられた州浜

待望の本格的改修工事が着工されたのは1992年10月でした。この工事の設計監理にあたったのは海外での日本庭園造園の経験が豊富な梶野俊明氏です。

彼は、森歙之助のオリジナルデザインに単に近付けるだけでなく、オリジナルデザインの意図をより明確にすることも考えました。その事が顕著に感じられるのが池の西側の護岸にオリジナルの図面がない「州浜」を設けた事です。州浜は森氏の行った陰と陽の空間構成を明確にすると共に、改修工事のためどうしても視覚的に狭くなるを得ない池の水面の広がり確保のため重要な役割をしています。その他、梶野氏は交通騒音への対策に「土堀」を設けたり、長年の樹木の手入れ不足などによる空間コンセプトの不明瞭化の対策など、きめ細やかな改修を行いました。



参考文献  
「ランドスケープ研究」No58

写真は川越市  
奥山園準氏提供  
('95.6.7撮影)

雪見灯籠のある島



## あったぞ！栗の大木が...

太素塚には真っ直ぐなクリの木があります

推定年齢 140年  
樹高 15m以上  
幹周 2.2m以上



青森市の三内丸山遺跡で根元の直径80cmで現代のクリの木から見るとけた外れのクリの木柱が出土して話題になっています。昔はこの位のクリの木はいくらでもあったのでしょうか。明治以降鉄道のまくら木として切り出され現在は殆ど見ることができなくなってしまいました。太素塚のクリの木について、「新渡戸傳一生記」「三本木開拓誌」によると、傳翁が墓所を造った慶応の頃より明治4年までの間に松・杉・ねむの木・楓・ヒバなどを植えていますので、このクリの木もその頃のものと思われる。太素の杜の中で、杉や楓の木と競い合うように真っ直ぐに伸びたこのクリの木は実に見事です。太素塚は新渡戸傳翁が生前の慶応2年7月に撰州御影石を大阪で購入、直筆で「太素塚」と刻ませ自ら終焉の地と決めておりました。三本木原開拓をなし遂げ、明治4年9月27日に逝去し、この地に埋葬されました。以来傳翁は、太素塚から市の発展を見守っています。

**\* 活動報告 \***

●「新渡戸記念館ニュース」を5月より掲示

平成7年5月から、新渡戸記念館に関する情報を「新渡戸記念館ニュース」としてパネルで掲示しています。「新渡戸記念館ニュース」では、記念館所蔵の資料について簡単な紹介をしたり、その他幅広い情報を掲載しようと考えています。毎月3日ごとにパネル替えを行う予定です。又、3カ月分の「新渡戸記念館ニュース」をまとめて「新渡戸記念館だより」で紹介することにしました。本紙の3ページに5月分の「記念館ニュース」を掲載しています。

6月は「古文書の世界(1)読んでみよう!三本木平開業之記」と題して記念館所蔵資料・「三本木平開業之記」を紹介しております。来月は「稻生川の流路をたずねて」を写真構成で特集したいと思います。



▲6月発表の「記念館ニュース」

**\* 記念館資料の提供 \***

●弘前市立博物館

「津軽藩と北方警備」展  
(4月15日～7月2日)

弘前市立博物館で、4月15日～7月2日まで開催の企画展「津軽藩と北方警備」に、当記念館から11点の北方警備関連の資料を提供しています。これらは新渡戸十次郎が南部藩北辺警備にあたった折、描かれた北海道各地の絵図などです。11点を前期(4月15日～5月21日)と後期(5月23日～7月2日)に分けて展示されています。どうぞ、機会がありましたらご見学ください。



●水沢市後藤新平記念館特別展

「関東大震災——その時後藤新平は」

岩手県水沢市の市立後藤新平記念館では3月22日～5月30日に、関東大震災に関する特別展を開催しました。これに当館所蔵の関東大震災後の罹災状況を現した東京地図(大正12年9月1日)と、復興局による区画整理原形図(大正12年12月)を提供致しました。これらの資料を見ると、当時「大ぶろしき」といわれた偉大な先覚者・後藤新平の東京復興にかける壮大な夢がよくわかります。

**\* 関連情報 \***

●弘前市立郷土文学館

「佐藤紅緑展」

(1月10日～6月30日)

詩人サトウハチローの父、佐藤紅緑は昭和初期に少年少女小説を書き、「ああ玉杯に花うけて」で有名な、弘前出身の小説家です。新渡戸家出身の太田常利は、紅緑の姓の優子と結婚していますので、親戚にあたります。



▲石に刻まれた「佐藤洽六」の文字

今回の佐藤紅緑展には、「紅緑と新渡戸家」としてのコーナーが設けられています。又、佐藤紅緑の本名は洽六ですが、太素塚の新渡戸稲造の墓石の石垣のひとつに、「佐藤洽六」の名が残っており、その交流が偲ばれます。

●三陸はるか沖地震による記念館の修復完了

昨年12月28日突然おそった三陸はるか沖地震では、太素塚の墓石や灯籠が倒れたり記念館の北側外壁に亀裂が生じたり等かなりの被害が出ました。これに対し、水野市長を初めとする市当局の迅速な処置により元朝参り等にあわせて応急処置をいたしました。5月3・4・5日の太素祭に間に合わせ完全復旧が図られました。市立新渡戸記念館も、昭和40年の建設以来この補修を契機に外面の完全塗装が実施され、見違えるように装いを整えました。今後内部の壁面、天井の塗装と床面の改装がおこなわれますと、旧に倣した新生新渡戸記念館になると思われれます。この工事が一日もはやく行われますことを希望しております。

…………… 編集後記 ……………

今やっと編集が終って、ほっとしております。今後も新渡戸記念館に関する様々な情報をお伝えしていきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。(新渡戸記念館スタッフ一同)

発行 十和田市立新渡戸記念館  
〒034 青森県十和田市東三番町24-1  
TEL (FAX) 0176-23-4430  
印刷 有限会社 岩間印刷所